青陵大

R３年１１月１５日
仙台青陵中等教育学校
２学年通信　No．２１

記憶をつなぎ，思いを受け継ぎ，次に伝える

防災学習レポートから①

南三陸，大川小を訪問し，防災学習のレポートをまとめました。レポートは南三陸町での防災講話と語り部さんからのお話の内容，大川小について，最後にこの学習を終えての考察，感想をまとめました。ここでは，深い学びのあった人たちの中から数名をピックアップし，まとめを掲載させていただきます。

今回実際に被災地である南三陸を訪れてみて，災害は建物や街への被害だけでなく，人の心にも大きな傷を残してしまうということを考えました。また，建物への被害は治すことができるけれど，一度大きく傷ついてしまった人間の心は簡単には治すことが難しいと感じました。被災したときのことは覚えていなかったけれど，今回南三陸を訪れてみて，被害の大きさを知り，とても驚きました。復興ということは建物を治すことだけではなく，街の人が前へ進んでいけるように支援し続けていくということでもあると考えました。

さん

私たちは小学生のときから，「2学年下の子たちからは震災を経験してないんだからあなた達が伝えていかなければいけない」と言われ続けてきた世代だと思います。しかし，実際には私達が震災を体験したのは2，3歳のときであって，記憶もあまりない中，何を伝えればいいのかなあとずっと思っていました。今考えると，自分にはそこまで記憶がないからよくわからない，自分にはあまり関係のないことなんじゃないかと，震災から目をそむけていたのだと思います。なので中2になった今，多くの人が亡くなったという出来事を知り，しっかりと向き合おうという思いで，この校外学習に臨みました。

私が事前学習で調べた「阪神淡路大震災」は死因の多くが圧死でしたが，「東日本大震災」では津波の被害がメインでした。語り部さんが話していた「同じ災害は二度と訪れない」ということはこういうことかと思いました。阪神淡路大震災の教訓が東日本大震災に活きた部分はあっても，どんな被害が来るかは想像できないのでいちばん大切なのはその時の判断だと思いました。

今回の校外学習で特に印象に残ったのは大川小学校です。私は南三陸町に行ったことがありませんでしたが，現地を訪れてみないと感じられないことがたくさんあるのだと気づかされました。教室に中庭，体育館，ここにたくさんの生徒の生活があったんだなと感じました。生徒達の楽しい声が聞こえてくるようでした。突然大きな地震に襲われ，巨大津波を目にした時，そこにいた人々はどう思ったのでしょうか。想像するだけで恐ろしく感じます。非常事態に，冷静に行動することは本当に難しいことなのだと思います。

地震大国である日本ではいつ，どこで地震が起きるかわかりません。もしかしたらまた大きな地震が来て，私がいつも見ていた笑顔がなくなる日が，当たり前の日常が壊れてしまう日が来るかもしれません。そんな時に，今回の貴重な体験を忘れず，自分も東日本大震災の教訓と今回学んだことをあとに伝えていきたいと思いました。そして何より，日頃からの近所の人たちとの交流，家族，身近な人を大切に，１日１日を大切に生きたいと思いました。

さん

語り部さんに会ったり，被災した場所に行ったりしたことで，「語り継ぐ」ということが大切だと感じました。震災当時，私たちは2.3歳だったので，当時のことをはっきりと覚えている人は少ないはずです。だからこそ，「忘れない」というよりは，3月11日のことを大人の人から聞いて，私たちが感じたことを繋いでいくことの方が風化しない為に重要な事だと思います。また，今も尚，建物などではなく心の面で「被災」している方がいることを知りました。佐藤さんの話にもあったように，被災した方や，家族を失った方の心が元通りになってから初めて，復興したと言えるのだと思います。そのためにも，被災した方に何ができるのかを自分で考え，忘れないよりも，当時どれだけ大変な思いをした人がいるかを語り継ぐスタンスで防災意識を持ちたいです。

さん

震災によってたくさんのものを失った人がいるのだとわかった。そのような人の話を聞くと自分が悩んでいたことがちっぽけなように感じられた。また，建物が壊れることや人が亡くなるのもほんの一瞬で自然の力のすさまじさを知った。建物が壊れるということは，その建物で過ごしたたくさんの人の思い出もなくなるということだと思う。だから，公民館のように再利用できるものは再利用するということはとてもいい取り組みだと思う。それに，多くの時間をかけて作ったものも，たった一瞬で消えてしまうのだと思った。日常はいつ壊れるかわからないため，今この瞬間を大事にしたい。

語り部さんの話を聞いている中で，震災の被害にあった人の多くは後悔している事がわかり，大事な場面で後悔しないようにするのはとても難しいことなのだと思った。その時，最善の行動だと思っていても後悔はつきまとうと思う。できるだけ後悔しないように様々な方向から物事を考えられるような柔軟な人になりたい。

さん

私は今回東日本大震災の被害や規模について実際に語り部さんからお話を聞き，自分が思っていたよりもすごく大きい被害であったことを実感しました。特に，石碑に彫られていた「今，青き海に祈る。愛するあなた，安らかなれよ。」という言葉からは，大切な人を亡くすこととはどういうことなのかを十分に知らされました。大きすぎる悲しみや悔しさなどを何かにぶつけることもできず，未来が見えない暗闇の中に置き去りにされ，それでも今に至るまで復興に力を入れて未来を作っていこうとした方々を本当に尊敬します。

そして，今回の調査から，心と街の復興が大切だと考えました。人間より圧倒的な力をもつ自然災害は今の時点では防ぐことができません。そのため，地震が起きないために何をするか，ではなく，地震が起きたあとに何をするかが最も重要だと考えました。もし私が大人になったときに地震が起きても，地震に負けず，くじけない精神力と共に，復興への道をどんどん作っていけるように今から努力していきたいと思いました。

さん

九州研修旅行のお手続き お早めに

１０月１５日（金）の保護者会でお知らせいたしました，**令和４年度３学年研修旅行費のお支払い**に伴う“ＪＴＢ教育旅行積立”のお申込期限が過ぎております。まだ，お申し込みがお済みでない保護者の皆様は取り急ぎお申し込みをしていただきますようお願いいたします。まだお申し込みがお済みではない保護者の皆様にはお子様を通じましてご連絡させていただきます。なお，お申し込みの最終期限は**１１月１９日**となっておりますので，厳守の程よろしくお願いいたします。積立に関する資料は，１０月に配付させていただいた保護者会資料と一緒にお渡ししておりますのでご確認ください。